

# すばらしい 蒸気機関車

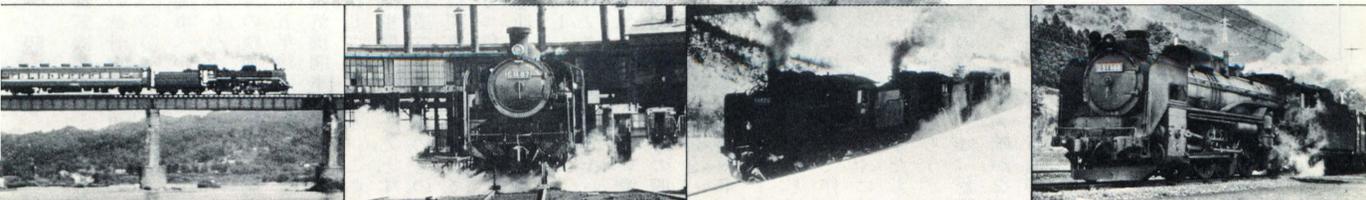
〈カラー作品〉

同時上映 機関車D51

優秀映画鑑賞会推薦

全国二〇〇万人の鉄道ファンに贈る  
感動の長編ドキュメンタリー  
ここに魅える。

演出・撮影・脚本 高林陽一  
製作 高林三郎  
音楽 大林宣彦  
ナレーター 見上良也  
たかばやしプロダクション作品  
主催 すばらしい蒸気機関車を上映する会



8月 **27日・28日**

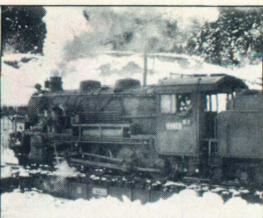
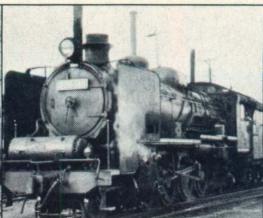
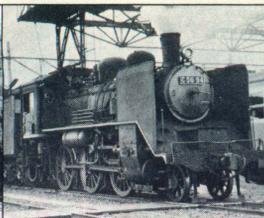
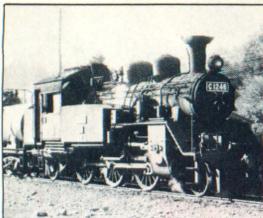
有楽町 **読売ホール**

前売券発売中 前売 800円 当日売 1000円

前売券は都内各プレイガイドにて発売中！  
ご予約・お問合せ 東西通信社 591-2161 (代)

上映時間 9:30 11:40 13:50 16:00 18:10

# 《この映画に主演するスターたち》



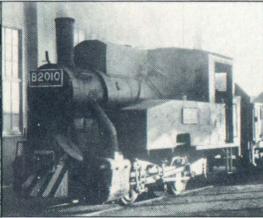
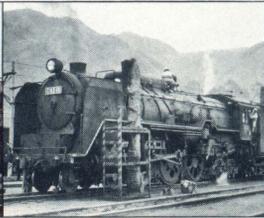
**C12 <ICIタンク>**  
1932年生まれ。昭和初期の不況時代、線路条件の悪い線に使用する目的で作られた簡易線用タンク機関車。動輪直径1400ミリ。

**C56 <IC tender>**  
1935年生まれ。C12をテンダー化した設計の小型機関車。炭水車はバック運転の時、見とおしをよくするため凸型に造っておるのが特長。動輪直径1400ミリ。

**D50 <IDI tender>**  
1923年生まれ。23年から9年間にわたり380輛も製造された優秀貨物用機関車。D51の出現後は第一線から遠ざかり、51年には1部がD60に改造された。動輪直径1400ミリ。

**D51 <IDI tender>**  
1936年生まれ。<デコイチ>の愛称で広くファンに親しまれた機関車。36年から45年までに1100輛も作られた量産車で、戦時下の日本の貨物輸送に貢献した。動輪直径1400ミリ。

**9600 <ID tender>**  
1913年生まれ。大正時代における貨物用機関車として量産され、蒸機国産化を確立した名機関車。<キューロク>の愛称でファンに親しまれ活躍。動輪直径1250ミリ。



**C59 <2CI tender>**  
1941年生まれ。東海道・山陽線急行旅客用蒸機としてつくられた近代設計の大型機関車。第一線機として長く王座の位置にあったが、電化の波でC60に改造。動輪直径1750ミリ。

**C62 <2C2 tender>**  
1948年生まれ。第二次大戦中に量産された貨物用D52のボイラーを利用した大型旅客用蒸機、旅客用機関車中最大・最強力として人気のあるグラマー。動輪直径1750ミリ。

**C61 <2C2 tender>**  
1947年生まれ。C62と同じようにD51のボイラーを改造転用した旅客用機関車。自動給炭装置など新しい試みをくわえた戦後派蒸気機関車。動輪直径1750ミリ。

**C58 <ICI tender>**  
1938年生まれ。8620とC57の中間的性能に設計された中型万能機で国鉄蒸気機関車の標準模範型ともいえる機関車。動輪直径1520ミリ。

**B20 <タンク>**  
1945年生まれ。重量20.3トンという国鉄最小の蒸気機関車。太平洋戦争中に15輛が製造されただけで次々と廃車。動輪直径860ミリ。

僕は何がなんでも蒸気機関車。カメラを買ったのも、旅行をするようになったのも蒸気機関車が好きだから。もう映画でしか見られない、君に会いたい。

千早中学校 庄野 武志

美しい日本の四季をバックに流れる蒸気機関車、また見れるなんて夢のよう。

日本大学芸術学部 黒瀬由比子

僕は何がなんでも蒸気機関車。カメラを買ったのも、旅行をするようになったのも蒸気機関車が好きだから。もう映画でしか見られない、君に会いたい。

子備校生 山本 洋

私は、煙を出し、蒸気をはいて走っている蒸気機関車を見た事ありません。今度映画で見られるなんて、今からワクワク、ドキドキ。

ラジオたんば パーソナリティ 斉藤 洋美

北海道で生まれ育った私には、蒸気機関車は生活の一部でした。妹と2人ではよく線路わきで手を振ったのは、蒸気機関車の沈黙の責任感に感謝の気持ちからだ。たのしみです。

パーソナリティ 竹谷 英子



# すばらしい <カラー作品> 蒸気機関車

演出・脚本・撮影……………高林陽一  
制作……………高林三郎  
音楽……………大林宣彦  
音響……………倉嶋 暢  
ナレーター……………見上良也  
たかばやしろういちプロダクション  
主催 すばらしい蒸気機関車を上映する会

## 同時上映 <機関車D51>



《高林陽一監督プロフィール》  
1931年4月29日、京都市生まれ。大の機関車マニアであり、作品も「機関車のある風景」を始めとして、独特のアンクルで機関車撮影は見る人を驚嘆させる。79年制作の「ザ・ウーマン」はカンヌ映画祭に出品され、賞讃を浴びた。現在「ナオミ」撮影中。

監督の高林陽一は、「金閣寺」「本陣殺人事件」「ザ・ウーマン」とその確かな映像美で一作ごとに新境地を開拓している新進作家。

音楽を「ハウス」の監督で高林監督の友人でもある大林宣彦氏が担当しているのも注目される。

蒸気機関車への深い愛情を持ったカメラは、この機関車たちを日本の四季の移りかわりの中にとらえる。美しい風景をバックに懸命に走る機関車たち、そしてその機関車への愛情を語りかける若い娘。その思慕のミュージカル風ならえ方。作者高林陽一の確かな目と、真に映画と機関車を愛する人々の手によって作られたこの作品は単にドキュメンタリーと呼ぶにはあまりに人間くさい。むしろ、蒸気機関車たちを主役にしたドラマ、といった方が適切だろう。

蒸気機関車への深い愛情を持ったカメラは、この機関車たちを日本の四季の移りかわりの中にとらえる。美しい風景をバックに懸命に走る機関車たち、そしてその機関車への愛情を語りかける若い娘。その思慕のミュージカル風ならえ方。作者高林陽一の確かな目と、真に映画と機関車を愛する人々の手によって作られたこの作品は単にドキュメンタリーと呼ぶにはあまりに人間くさい。むしろ、蒸気機関車たちを主役にしたドラマ、といった方が適切だろう。

《解説》  
蒸気機関車——今や日本の鉄道から姿を消した、あの武骨な機関車。この「すばらしい蒸気機関車」は一〇〇年の歴史をもって走りつづけてきた蒸気機関車へのかぎりない憧れと郷愁を美しい日本の四季をバックに謳い上げた長篇である。

この映画が初めて公開されたのは、昭和45年10月、五年後の昭和50年には全国に細々と走っていた蒸気機関車たちも、北海道を最後に、完全に姿を消してしまつた。この映画は当時現存していた蒸気機関車のほとんどすべてをフィルムにおさめた鉄道ファン待望のものであるばかりでなく、蒸気機関車たちが活躍していたさまざまな土地のロケル色を十分に生かした映像詩である。この映画を通して、日本人の「心のふるさと」をこのすばらしい蒸気機関車たちの中に見入だすのは単にSLファンだけではないだろう。